



読字 原田 鏡

No. 674

2012/7/15

日中友好新聞

発行所
日本中国友好協会
〒113-0033 東京都文京区
春日1-1-1807231室

日中友好協会
岡山支部
〒703-8256
岡山市東区3-8-30 514
TEL:086(272)-3016
郵便番号1100
01250-0-3835

日中友好協会
倉敷支部
〒713-8911
倉敷市遊島中央1-8-4
(宮地方)
TEL/FAX:086(446)-2711

日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://rzhong.biz/>
メールアドレス
rzhong86@hotmail.co.jp

中国革命戦争を生き抜いた日本人看護婦の回想「アカシアの花」

日中友好協会倉敷支部の会員、栗本スエ子さん(倉敷市水島在住)が、このたび「アカシアの花」という本を出されました。

ご自分の回想録です。栗本スエ子(旧姓柴倉)さんは、1926年川面村(現高梁市)に生まれ、1943年看護婦となり、その年の10月中国瀋陽市の病院に勤務。1945・8月、日本の敗戦後勤務していた病院が中国八路军軍に接収。その後8年間八路军・人民解放軍と行動を共にし、中国革命戦争を生き抜いてこられました。本書にはその回想が生々しく書かれています。私は一気に読み深く感動しました。

大本よし子

(大本よし子さんのブログから)

「アカシアの花」への感想が次々と寄せられています。今回はそのうち、倉敷支部の会員、谷口洋子さんと、岡山支部の会員、井上愛子さんお二人の感想を掲載します。

「患者を救いたい」心があふれて 歴史の史料としても貴重

梅雨の合間に少し涼しいとほつとします。今朝早かったので医療生協の新聞を配りました。昨日、御著書「アカシアの花」を拝読しました。倉敷市議団事務局で薦められて買いました。革命戦争を生き抜いた……とあり、これは読みだしたら止められない本だと直感し

ました。本当にそうでした。高梁での幼少期にご両親の愛情いっばいに育てられたこと、自立心への強い思い、そのための努力、その基礎があつてこそその困難な時代、環境を乗り越えてこられたのだとまず敬服しました。実は私の父も似たような環



中国革命戦争を生き抜いた日本人看護婦の回想

栗本スエコ

境で育ち、川上町領家出身ですが、8人兄弟姉妹のうち姉二人は助産婦と看護婦でした。女性が自立するための職業として大切だったのでですね。

敗戦間際の旧満州の様子もよくわかりました。日本人(民間人)だけなにも知らず、ただ不安、不穏な様子にぞうなるのだろうと思いつつ、生きることだけで精いっぱいだったことともわかりました。

八路军との行軍、また行軍のきびしい行程、食事もままならない日々、よく生きてついて行ったなあ、と革命(内戦)期の実態も初めて知りました。八路军と日本人との関係も英雄主義的でなくて、生き延びるために選んだ一人の若い看護婦の素直な目でみて、反発し

たり、感動したりと少しずつ信頼関係をつくりだしていく過程が丁寧に書かれ、読者を納得させるリアリズムに著者の冷静な目を感じました。

一番感動したのは何より、患者を救いたい」という心が全身に満ちあふれていて、すべての行動の基本となり、またそのことが周囲の人たちに伝わり、慕われ、尊敬されていることだと思えました。雪の中を助けてくれた王さん他、様々な人が彼女を生かすべく自然に手を差し伸べずにはいられなかったらうと思いました。

地名、人名などいろいろ調べたり、問い合わせたりしたでしょうが、それにしてもあの混乱期をよくここまで記憶していた著者に心から尊敬と感謝の気

持ちでいっぱいです。歴史の資料としても貴重なものだと思います。歴史の流れにただ流されていったのではなく、自分も成長しなくてはという思いで生きてこられたからでしょう。

マンガ展で栗本さんから誘われて日中に入りましたが、事務局からいつも丁寧な案内をいただいています。機関紙も楽し

栗本スエコさんのアカシアの花を読んで

まあ、なんと私と似通った境遇の方だろう……と感心して読みふけりました。

看護婦になって若くして渡満、敗戦後、中国人民解放軍の病院勤務、度々の移動、ご苦労の多かったことと存じました。

行軍の途中動けなくなった際の王さんの献身的な援助、これこそ中国共産党の教えを実践なさったのだと、改めて素晴らしいと拍手を送ります。人民服務のスローガンのもとでの毎日でしたから。

86歳の私は若いつて何事も恐れず、郷に入れば郷に従えと貴重な体験ができた懐かしく思い出が走馬燈のように駆け巡ります。

栗本さんたちの老百姓との付き合い合いも楽しく書いてあり、フツと笑ってしまいますが、

みです。

本当に良い本を書いてくださり、中国建国までのさまざまな苦勞を教えてくださいましてありがとうございます。

これからもお元気で歴史を語り続けてください。

栗本スエコ様

谷口洋子

中国の広い大陸での数々はやはり生涯の宝物であることは共通だと感じる次第であります。

井上愛子

第25回 岡山きりえ展



7月24日(火)〜29日(日)

AM 9:00〜PM 5:00

岡山県天神山文化プラザ

主催 岡山きりえの会

共催 日中友好協会岡山支部

今回は、第44回きり絵コンクールの入選作品も展示されます。岡山きりえの会の作品ともども鑑賞ください。

映画「沖繩」を観て

6月1日に天神山文化プラザで、1970年に製作された映画「沖繩」を観ました。本土復帰前のあまりにも理不尽な人権侵害を描き、その現実から立ち上がり、心から日本復帰を願う人々。本土並み復帰を願っていた人々にとつて、今の沖繩の現状はどううつるでしょうか。平和憲法の国日本へ復帰する希望を胸に、闘いを進めていく人々を見てみると、本土で（特に米軍基地のない岡山で）今、私たちに何ができるのだろうか。

然でしょう。

日米安全保障条約は必要である、しかし、自分の住む場所には米軍基地は来てほしくない。「この論理で沖繩は、日本人の心から抹殺されている。沖繩のことをもっと多くの人が考えてほしい。私たちが知らない事実を知るためにも、新しい映画「ひまわり」を製作上映する推進活動を応援しましょう。」

「ひまわり」は石川・宮森ジエツト機墜落事故を描いています。

“沖繩戦の終結宣言から14年後の1959年6月30日、午前10時40分頃、嘉手納基地を離陸した米軍ジエツト戦闘機が突然、沖繩石川市6区5班、

8班（現うるか市石川松島区）そして、宮森小学校に墜落炎上した（後に整備不良だったことが判明した）一瞬のうちに学童11名、近隣住民6名（さらに事故の後、後遺症で1名）の尊い命が奪われ、210名の重軽傷者を出す大惨事になった。”

真田紀子



辛亥革命記念館博物館と桂林 その②

片岡 淑子

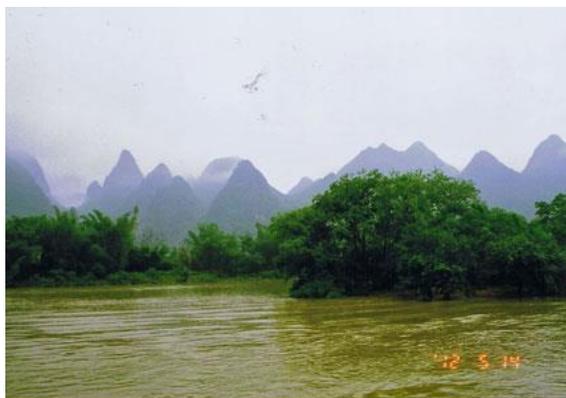
辛亥革命記念館博物館と桂林の旅一回目は、河井さんが書いてくださったので、そのつづきです。

桂林

流れの清らかさと水墨画の世界漓江、その漓江も前日からの大雨で濁流の中の川下りとなりました。

観光客の多いことと、特に白人の姿が多かったです小雨が降ったりやんだりの船出です。

霧がかかった奇峰はいっそう旅情を深めてくれます、その美しさは一幅の絵をみているよう、いくらシャッターを押しても撮り尽くせません。お昼す



ぎ、船は陽朔の街へ、商魂たくましい物売りの掛け声、どこまでも追いかけて来る。不要プーヤオ）不要（プーヤオ）」と覚えた中国語でことわる。旅の三日目は美しい桂林料理と漓江の風景、そしてちょっとした緊張感で暮れました。

ニホン人は、なぜ、ニホン語をおしえることができるのか？

20

竹内和夫

こたえ

⑧で、なぜ「キレカッタ」が正しくないか宿題でした。答えを、たとえば、つぎのように出しましょうか。

(1) 形容詞は語幹プラス「イ」が圧倒的におおいなかで、キレイのように～eiで終るものはひとつもない。アカイのように～aiで終るもの、ホシイのように～iiで終るもの、ニクイのように～uiで終るもの、シツコイのように～oiで終るものがあるが～eiはない。音として形容詞のなかまではない証拠？……シイが非常におおい。



(2)キレイは名詞だろう。たとえば「健康」という名詞とおなじく、「健康だ、健康な、健康で、健康なら（ば）、健康だろう、健康だった、健康です、健康でした」にならって⑩判定詞とともに2単語のことばをつくることできる、「キレイダ」以下おなじ。学校文法のように「健康な」を形容動詞という特別の品詞を入れる必要もなく、イ形容詞とナ形容詞にわける説を立てるまでもない。オオキナ、チイサナ、などはオオキ、チイサのような名詞（自立語）が存在しないのだから、これらは例外的な形容詞と考えられる。

(3)ではなぜ、キレイが「形容詞」とまちがえられ、「赤イ→赤カッタ」の類推で、キレイ→キレカッタが生じたのだろうか。

岡山方言では「高イ、深イ」などが、タゲエ、フゲエ と発音され、キレエ とおなじく、タゲカッタ、フゲカッタ。この類推で、キレカッタ が生じやすい。

形容詞 ナイ も ネエ と発音され、ネカッタ となる。

(4) もっとも大きな理由は、キレイとウツクシイの意味内容がごく近いことにある。音が近いだけなら、無礼（ブレイ）もあるが、ブレカッタとはならない。

つづく

第9回 東日本大震災救援募金 —お母さんの御縁玉貯金1kgあまりも—



大震災募金を去年4月6日から本部に送りつけています。さきごろ6月21日には第9回目¥15,341をとどけました。

このうち5円玉ばかり1kgあまり、あわせて¥1,385がふくまれています。これは、青木正さんが92歳のお母さんを自宅でみとつたあと発見されたものです。お母さんはゴエンがありますように、5円玉を袋に入れておられたそうです。なかに色の黒いのがあり、よく見ると昭和二十四年と二十五年の5円玉でした。

ありがとうございます。

9回までの合計は¥160,978になりましたが、これからもまだ支援が必要です。ひきつづきご協力をお願いいたします。

竹内和夫

次回の新聞発送作業は7月23(水)午後1時半、民主会館2階で行います。前回お手伝いくださった方です。

小林和
竹内和
竹内和
坪井三
垣